



# 町政覚え書き

大河原町長 伊勢 敏

## 第40回 温暖化問題を考える

～「脱・二酸化炭素連邦みやぎ」を10年前に掲げた宮城県は今年、『東北の水素社会先駆けの地』目指す～

地球温暖化の影響であろうか、今年は、蔵王連峰の冠雪が少なかつた。ふもとの我が家から頂上に冠雪が観測できたのは1月も下旬であつた。桜まつりには間に合つたが、冠雪の面積の少なさは誰の目にも明らかであつた。温暖化が進めば、冠雪の蔵王連峰を背景にした一目千本校の絶景のポスターは、『誇大広告』の誹りを免れることができず、使えなくなる。「ダメだつちや温暖化、脱・二酸化炭素連邦みやぎ」、これは宮城県が十年前に作成したポスターのタイトルである。地球温暖化の原因である二酸化炭素の県民一人当りの排出量が全国平均を大幅に上回っていたことに対する危機意識の表れであつた。

さて、2005年8月にアメリカ南東部を襲つたハリケーン・カトリーナは死者1836名、被害総額1080億ドル(約11・4兆円)、2013年11月にフィリピンを襲つた台風30号(フィリピン名ヨランダ)は死者6201名、行方不明者1785名、住宅を失つたかた410万人など、巨大化したハリケーンや台風が甚大な被害をもたらした。国内でもここ数年間、伊豆大島、京都嵐山、広島市を襲つたゲリラ豪雨が猛威を振るつた。異常気象は国内外で頻発化、激化の一途である。異常気象は、地球温暖化がもたらしたものである。「STOP 温暖化」、そのためには、二酸化炭素の排出量を現在の半分に抑制する必要がある。地球温暖化とは、化石燃料の大量消費がもたらす二酸化炭素の大气中濃度の上昇により、熱が地上にこもる現象である。産業革命以降、炭素を燃やしてエネルギーを得る『炭素社会』が進展、それにより経済が発展した。しかし、温暖化による損失は今後、計測不能となるほど、事態は深刻化している。

10年前、「脱・二酸化炭素連邦みやぎ」を掲げた宮城県は、様々な二酸化炭素排出量削減対策に取り組んできた。村井宮城県知事は今年の仕事始めの挨拶で、「東北における水素社会先駆けの地を目指す」と述べられた。水素は酸素と化合し電気と熱を発生し水になる。電気と熱を回収する装置が燃料電池である。県は今年度当初予算に、水素ステーションの導入、水素燃料電池自動車の購入、家庭用水素燃料電池エネファームへの補助を盛り込んだ。水素燃料電池は二酸化炭素排出量削減効果はあるが、水素の製造方法が課題である。水素は化石燃料を改質して製造される。政府は本年、化石燃料使用の抑制につながる「再生可能エネルギー」を含む環境技術による経済発展と環境保全の両立を展望し始めた。そこで注目されるのは、再生可能エネルギー源である間伐材などバイオマスから水素を製造する技術である。この技術を有する企業から、本町の負担を求めず本町に立地したいとの提案を受けている。本町並びに宮城県にとってありがたい提案だと思う。「ダメだつちや温暖化」のポスターは座右の銘の如く、今も我が家に貼つてある。眺めながら5、60年前、小中学生を過ごした大阪の冬を思い出す。現在の大河原町の冬より寒かつた。

絵本／ほくだつてトカゲ  
内田 麟太郎／文 市居 みか／絵  
トンビにおそわれたトカゲが、しっぽをきって逃げた。あわてたのは、しっぽ。「しっぽなんかまづまなつた方がいいよが、つりつておちるぞ、おきざりに。そのとき、カナブのおじさんがやってきて…」

児童／フェアブル先生の昆虫教室  
奥本 大三郎／文 【ポプラ社】  
スカラベの食べっぷり、世界のクワガタムシ、アリの通り道…。やさしい文章とたのしいイラストで昆虫の本能の「かしこさ」と「おろかさ」を紹介する、抄訳版「フェアブル昆虫記」。

小説／ねこのおうち  
柳 美里／著 【河出書房新社】  
生きることの哀しみ、そしてきらめき…。ひかり公園で産み落とされた6匹のねこたち。ねことその家族が奏でる命の物語。

一般／雑草がおもしろい  
盛口 満／著 【新樹社】  
雑草って、いったい何だ!? 雑草探検の旅に出かけた自然観察の達人が、求める雑草を見つけた時の喜びを綴り、雑草の生き様や辿ってきた歴史にまで思いを馳せる。

駅前図書館今月の新刊「まちの本棚」



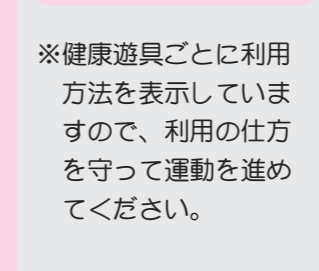
- ◀フィットコンビ  
◆フィットネスメニュー
- ・ステップ
  - ・前屈
  - ・ストレッチ
  - ・垂直跳び
  - ・ぶらさがり
  - ・上半身ひねり
  - ・足踏み
  - ・身長測定



③広表3号公園



①広表1号公園



健康遊具を活用しましょ

健幸都市  
おがわら  
連載④

※健康遊具ごとに利用方法を表示していますので、利用の仕方を守って運動を進めてください。